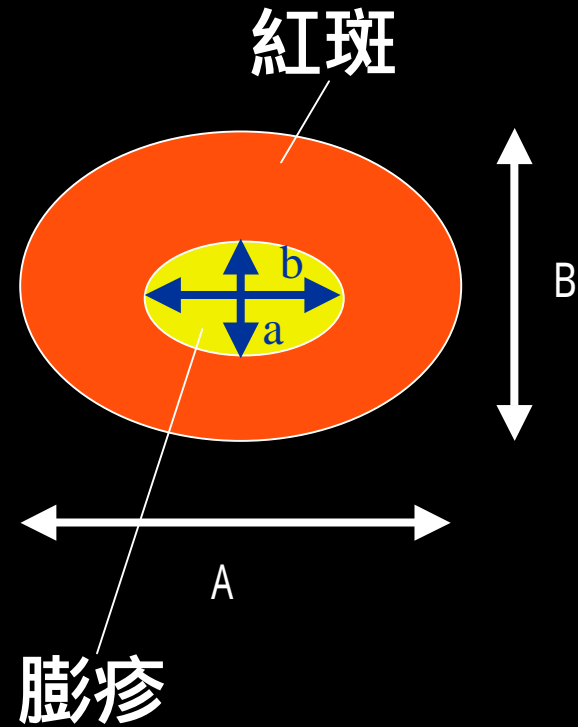


プリックテスト



$$a \times b / A \times B \text{ (mm)}$$

膨疹径の平均3mm以上が陽性

経口負荷テスト

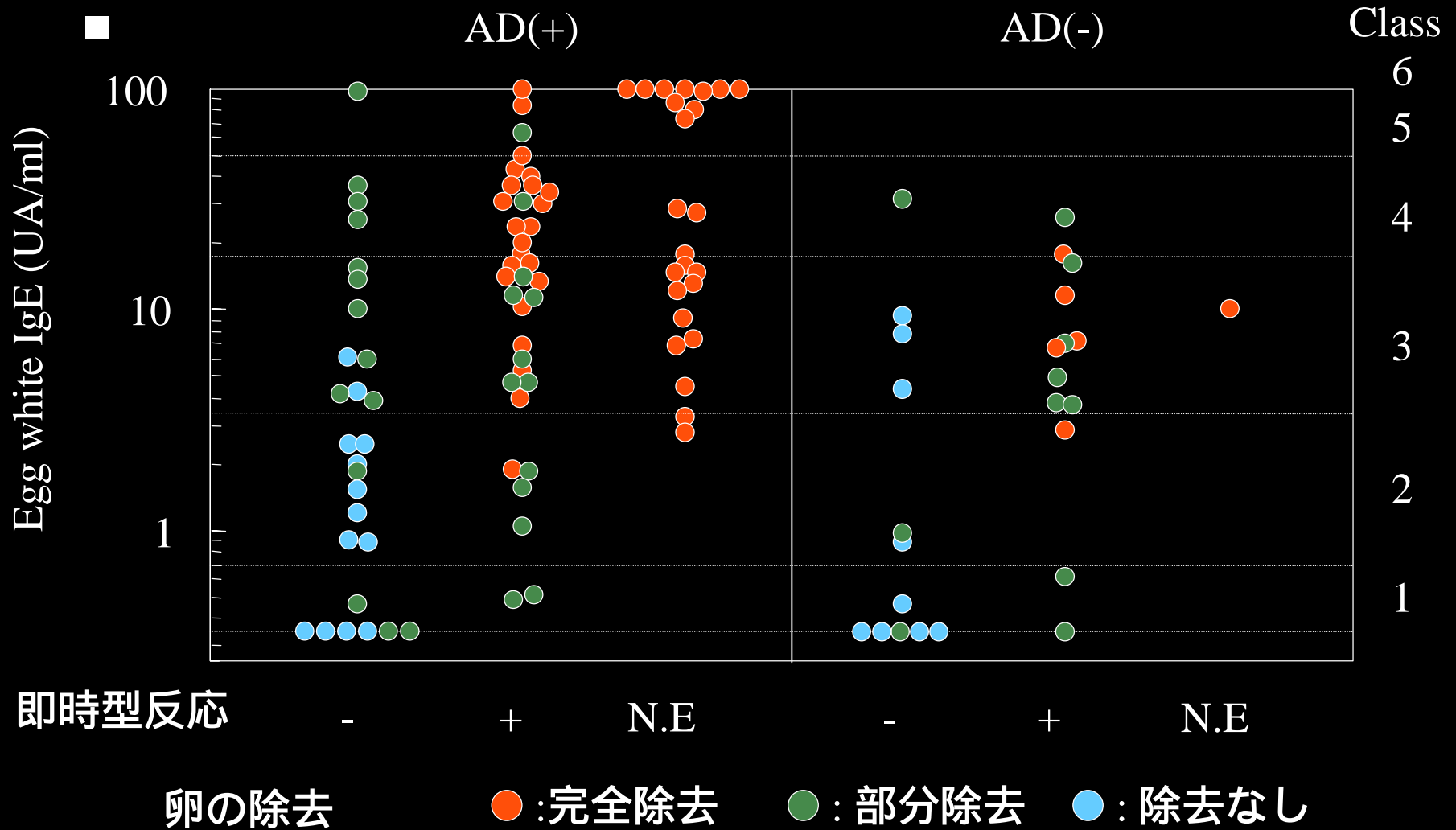
- - 午前中の外来で施行(一部は病棟)
 - オープンチャレンジ(食品そのもの)
 - 20分毎に量を増やしながら摂取
 - 卵白(固ゆで卵) 微量, 1, 2, 5, 10 g, 全量
 - 牛乳(生) 1滴, 1, 2, 5, 10, 20-50ml
 - 小麦(うどん) 微量, 1, 2, 5, 10, 20-50g
- 最終負荷後1時間は経過観察
- 誘発症状があれば、抗ヒスタミン剤、気管支拡張剤、エピネフリン、ステロイドなどで治療
- 翌日まで症状の悪化の有無を観察

経口負荷テストで誘発される症状

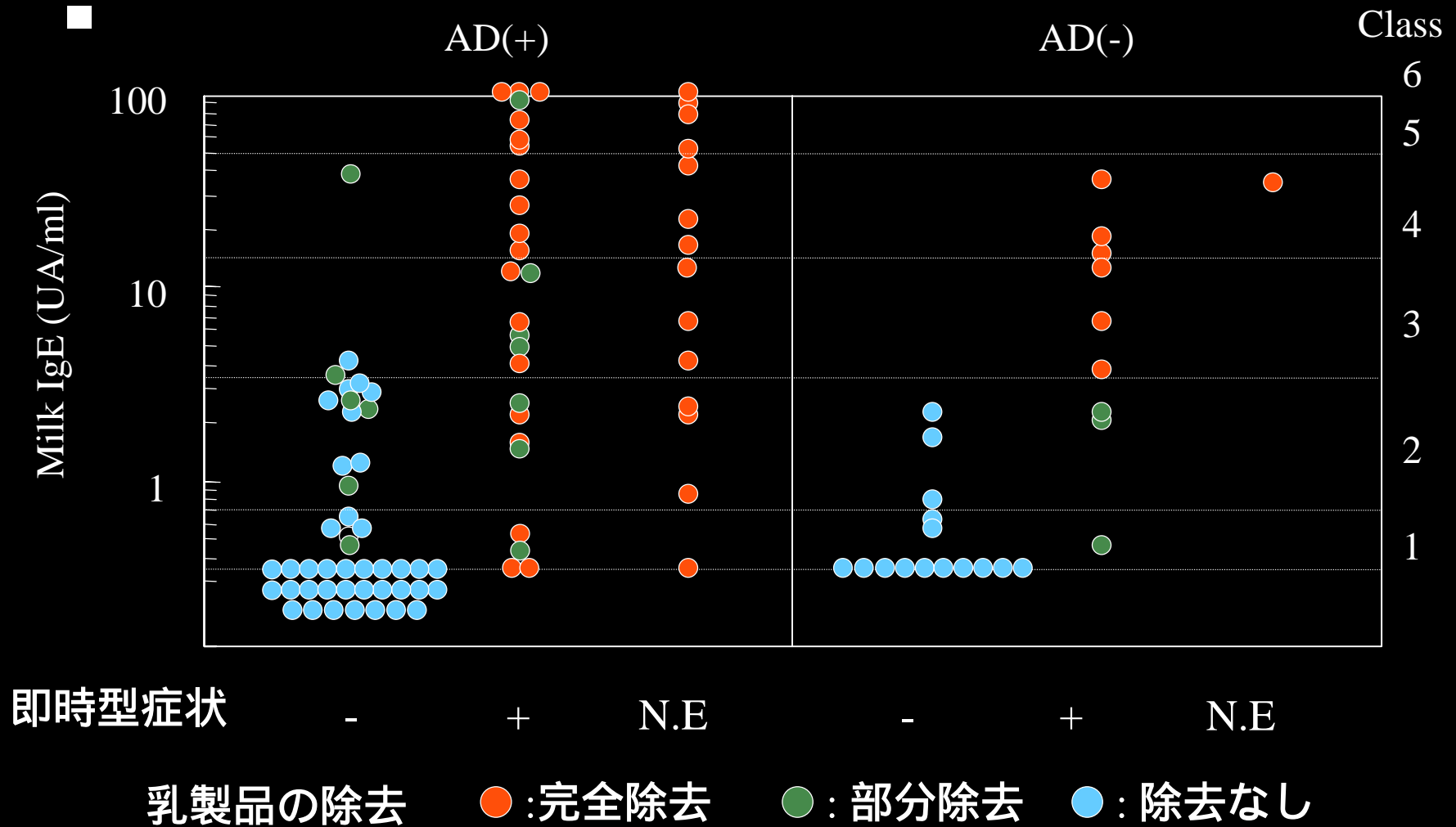
食品	牛乳	鶏卵	小麦	合計
負荷食品	牛乳	ゆで卵白	うどん	
施行数	142	232	106	480
陽性数	43(30.3%)	82(35.3%)	29(34.6%)	154
呼吸器症状	15(34.9%)	21(25.6%)	14(48.3%)	50
皮膚症状	35(81.4%)	57(69.5%)	24(82.8%)	116
消化器症状	7(16.3%)	30(36.6%)	5(17.2%)	42

平成13年11月～平成17年3月 同一食品を複数回施行した例は最後の1回のみを採用

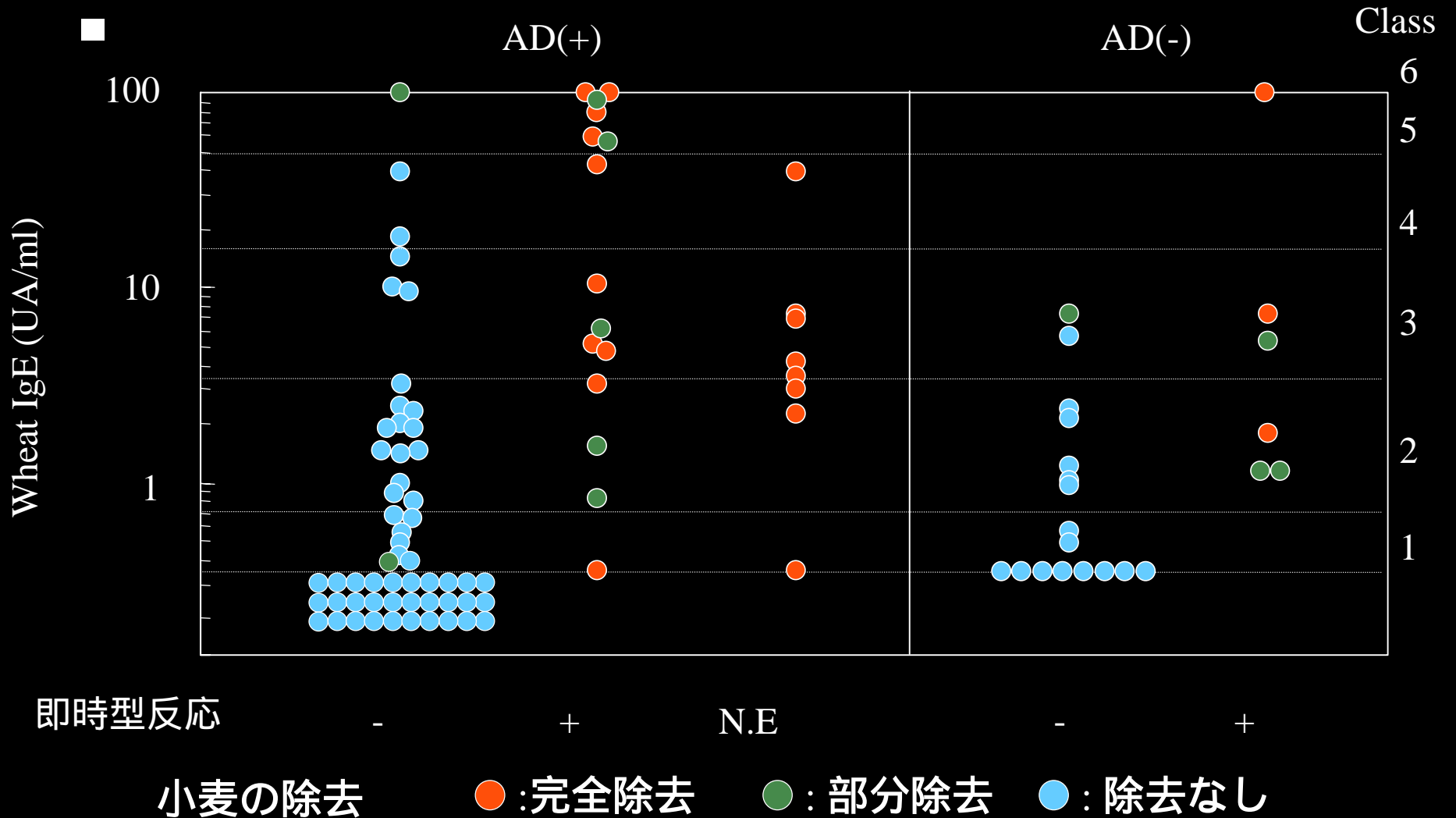
卵白IgE抗体価と即時型誘発症状



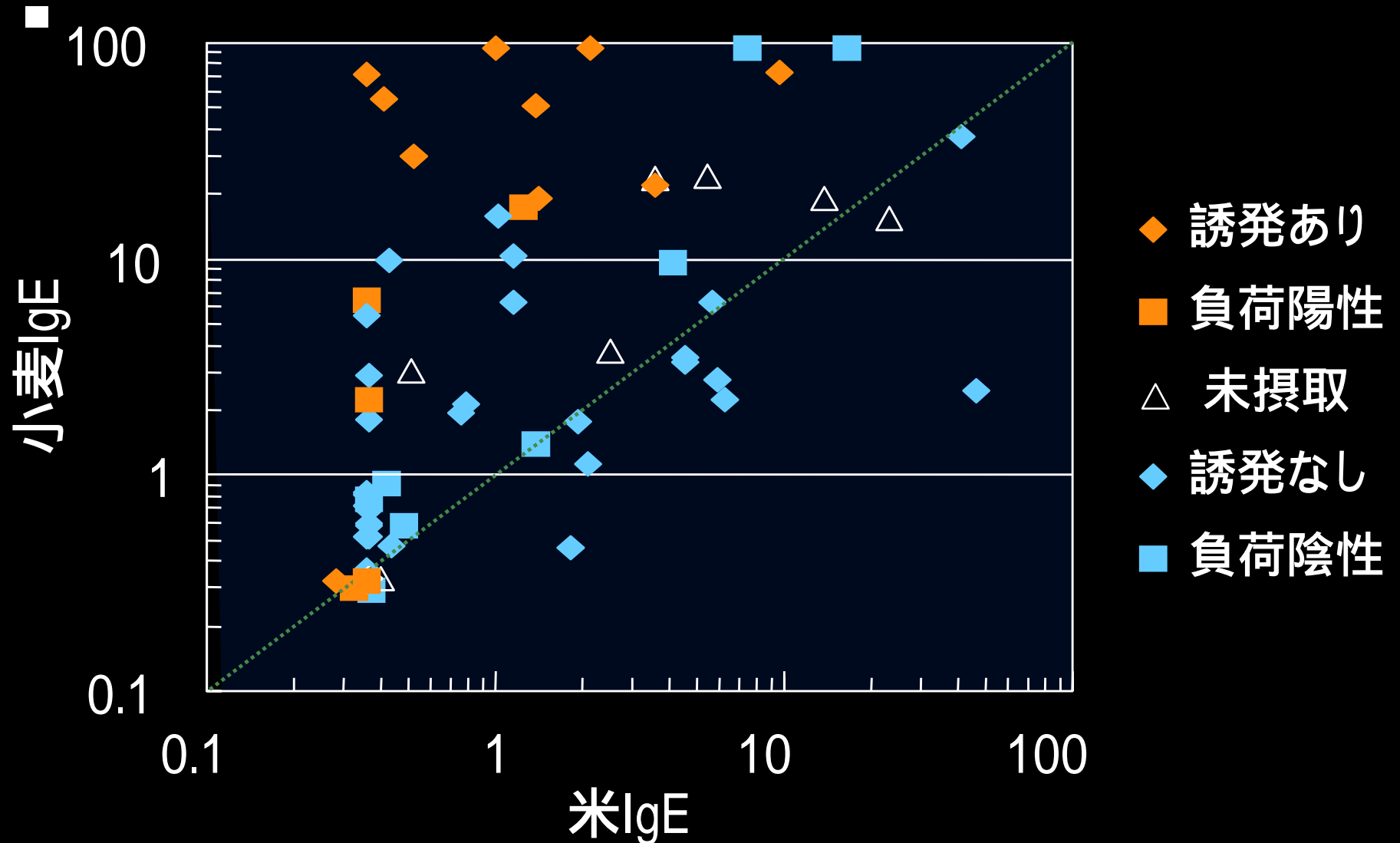
牛乳IgE抗体価と即時型誘発症状



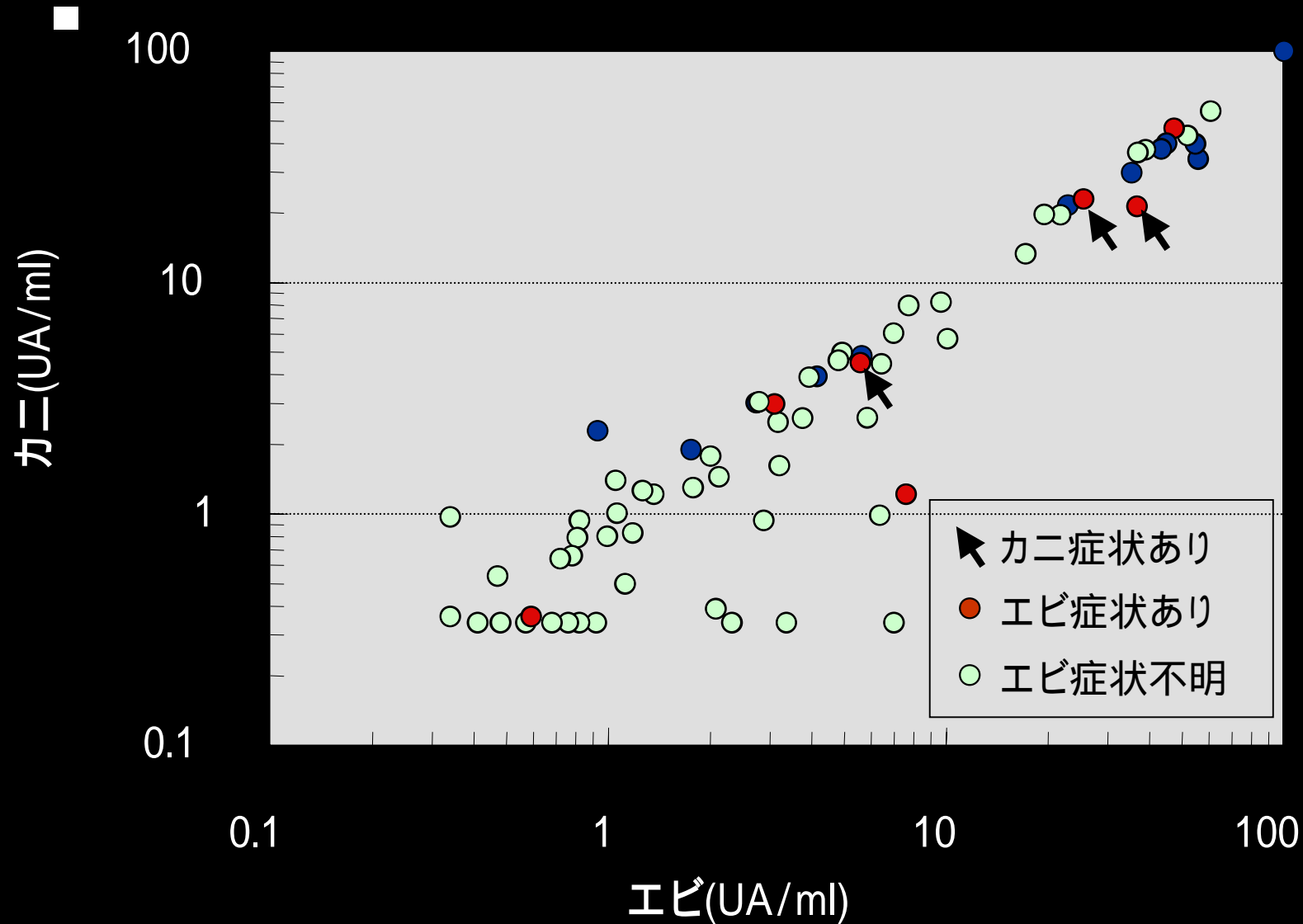
小麦IgE抗体価と即時型誘発症状



小麦アレルギーと米・小麦IgE



エビ、カニIgE抗体の相関と臨床症状

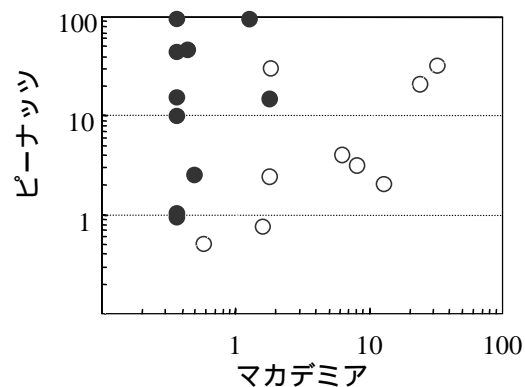
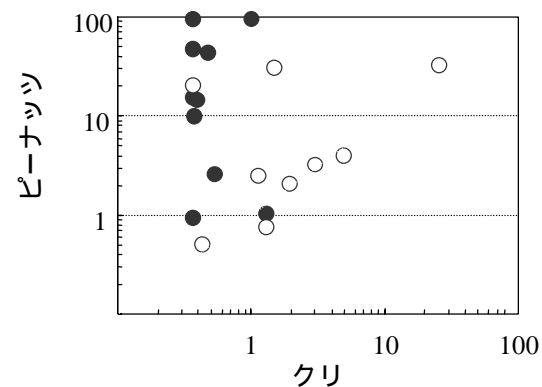
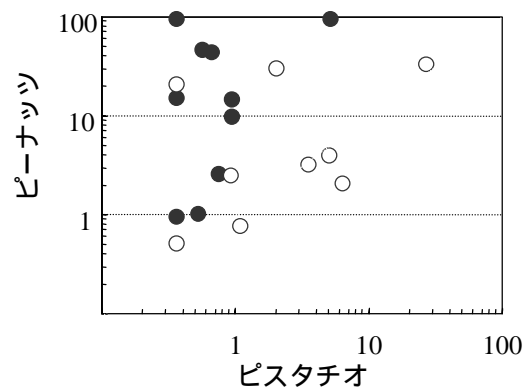
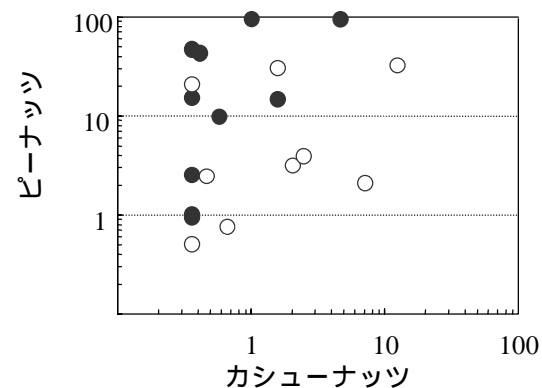
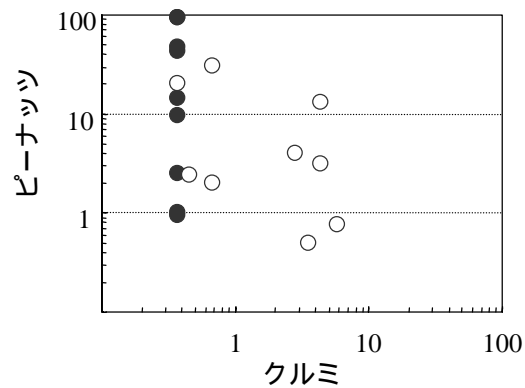
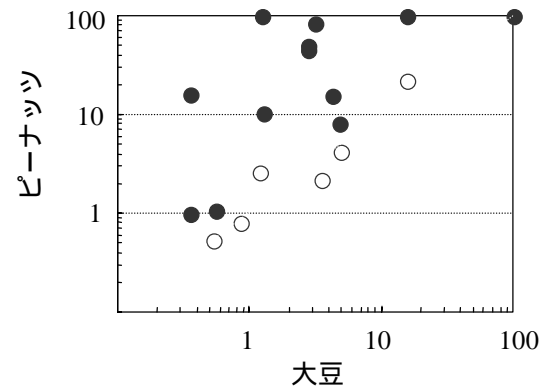


即時型ヤマイモアレルギー

No	年齢	IgEClass (UA/ml)	食品	時間	症状	合併アレルギー
1	1	0(0.48)	かりんとう*	直後	蕁麻疹	卵・牛乳・小麦
			とろろいも	5分後	咳・喘鳴・湿疹	
2	1	3(9.70)	煮たヤマイモ	直後	顔の腫脹	卵・牛乳・エビ・カニ
3	3	2(1.00)	とろろいも	直後	顔の紅斑・腫脹	卵(軽度)
4	1	3(13.0)	とろろいも	直後	全身蕁麻疹・嘔吐・咳込み・下痢	卵・牛乳・小麦
5	2	4(20.0)	とろろいも	1時間	顔全体の紅斑	卵
6	2	2(0.72)	とろろいも	直後	全身の発疹	なし
7	2	2(1.00)	焼いたヤマイモ	30分	全身の紅斑	卵・牛乳・魚

*ヤマイモ・大麦が原材料

伊藤:日小ア誌 19:65-68:2005.



ピーナッツと他のナッツ類の特異IgE抗体の相関

ピーナッツアレルギー (●) ピーナッツIgE偽陽性 (○)

ピーナッツアレルギー群のIgE抗体は、他のナッツ類のIgE抗体と乖離して高値を示す。

Crossreactive Carbohydrate Determinant (CCD)

- 植物の糖タンパクに含有される、共通な構造をした糖鎖(N-linked glycan)
- IgE結合能を有する
- 1価の糖鎖はFcεRを架橋せず、ヒスタミン遊離を惹起しない
- IgE抗体の偽陽性に関与する
- 多価の糖鎖は、弱いヒスタミン遊離活性を有する可能性がある

CCDと抗体の結合模式図

